



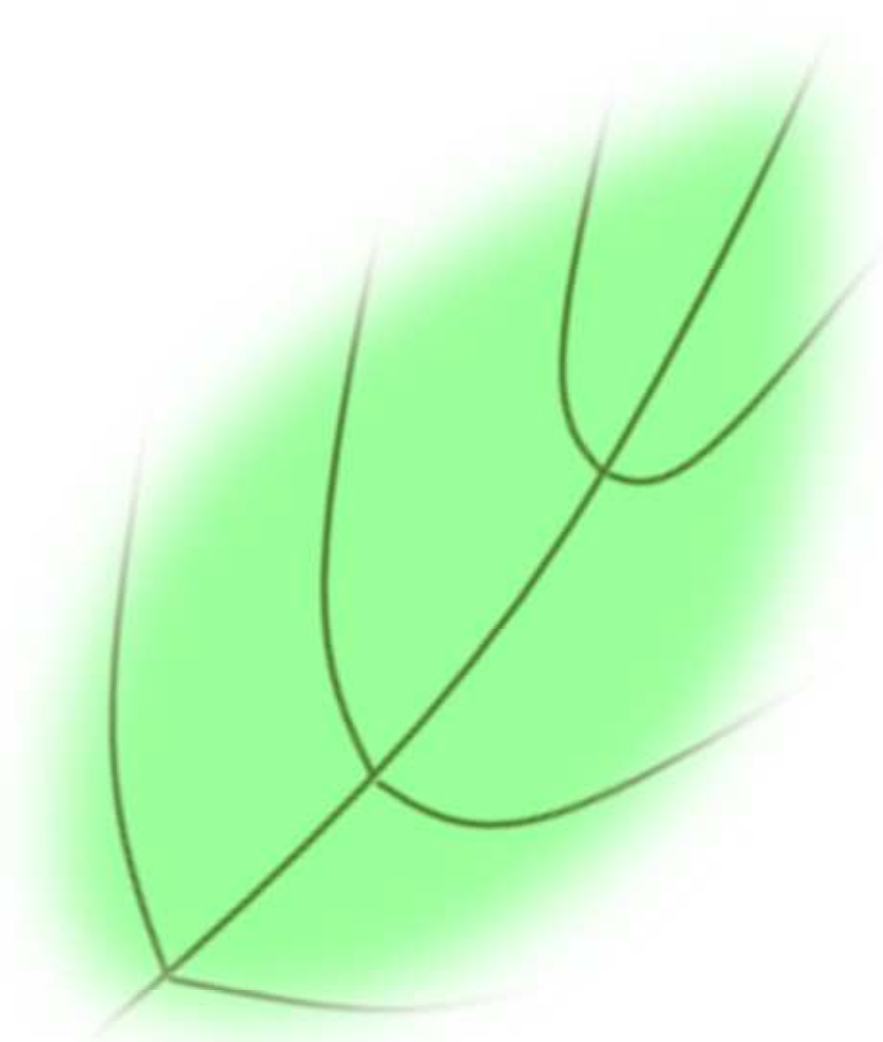
街路樹再生プログラム(第2期)

計画期間: 令和6年度から令和10年度まで



[目次]

| | |
|-----------------------------|----|
| 街路樹再生プログラム(第2期)の概要..... | 1 |
| 中心市街地(7路線)の概要..... | 2 |
| ・桃太郎大通り..... | 3 |
| ・県道岡山児島線・国道250号..... | 4 |
| ・城下筋..... | 5 |
| ・市役所筋..... | 6 |
| ・西口筋・昭和町通り..... | 7 |
| ・西川緑道公園筋・枝川筋..... | 8 |
| ・ハレまち通り・県庁通り..... | 9 |
| 西大寺駅周辺地区(4路線)の概要..... | 10 |
| ・市道西大寺上・中川町1号線..... | 11 |
| ・県道西大寺山陽線..... | 13 |
| ・県道岡山牛窓線..... | 15 |
| ・市道西大寺松崎・西大寺中1号線..... | 17 |
| 北長瀬駅周辺地区(4路線)の概要..... | 19 |
| ・市道北長瀬表町・野田線..... | 20 |
| ・市道北長瀬表町2号線、市道西長瀬・北長瀬線..... | 22 |
| ・市道今・西市線..... | 24 |
| 市域全体の街路樹の再生について..... | 26 |
| 改訂履歴..... | 27 |





街路樹再生プログラム(第2期)【R6年度～R10年度】

[背景・目的]

街路樹は、まちの景観を構成する重要な要素として不可欠な存在であり、夏の日差しを和らげる緑陰は、人々に安らぎを与え、このほか、脱炭素や生物多様性の確保など、様々な効用がある。

岡山市の中心市街地の街路樹は、これまで落葉等による沿道への影響を考慮しながら剪定を行ってきたが、年々剪定時期が早くなり、また枝の切り過ぎがエスカレートしたため、結果として樹形の悪化に繋がっていた。

こうした課題を解消するため、令和元年度から令和5年度までの5ヶ年計画で、中心市街地地区の景観重要道路7路線を対象に「街路樹再生プログラム(第1期)」(以下、「第1期」という。)を策定した。その中で、樹木の植替えや剪定の方法・時期を見直すことで、「緑のボリュームアップ」を行い、街路樹が持つ本来の美しい樹形を取り戻し、季節の移ろいや憩いを感じられる良好な都市景観の形成に取り組み、まちなかの回遊性や魅力の向上を図り、歩いて楽しいまちづくりを進めてきた。

令和6年度からは対象路線に西大寺駅周辺地区と北長瀬周辺地区の路線を加え、新たに「街路樹再生プログラム(第2期)」(以下、「第2期」という。)を策定し、引き続き街路樹の再生に取り組む。

[概要]

○計画期間 令和6年度から令和10年度まで

○対象路線 ・緑化推進重点地区の3地区の計15路線(第1期の取組を継続)

・中心市街地の景観重要道路7路線(継続)

・西大寺駅周辺地区の4路線(新規)

・北長瀬駅周辺地区の4路線(新規)

・市域全ての街路樹路線(街路樹剪定マニュアルの作成)

○目的 第1期取組を面的に広げ、美しい都市景観を形成し、まちなかの回遊性や魅力の向上を図り、歩いて楽しいまちづくりを図る

○新たな取組 ・緑化推進重点地区の15路線を対象に、取組成果の客観的な指標として、「緑視率」を導入し、心理的な潤い感や安らぎ感の評価を定量的に行う。また木陰の量を示す指標として「緑陰率」を定義し、歩行の快適性等の評価も定量的に行う。

・市域全ての街路樹路線を対象に、路線ごとの「街路樹剪定マニュアル」を作成し、街路樹再生に取り組む



街路樹再生プログラム(第2期)【R6年度～R10年度】

～中心市街地(7路線)～



[目的]

令和元年度から令和5年度までの5ヶ年計画で、中心市街地の景観重要道路7路線を対象とした第1期では、樹木の植替えや剪定の方法・時期等を見直し、街路樹が持つ本来の美しい樹形の回復に努めた結果、一定の成果を得ることができた。一方で、植替えを実施した樹木や、成長速度の差により統一感が感じられない街路樹も存在するため、第1期の取組を継続する必要があることから、引き続き「緑のボリュームアップ」に取り組むことで、まちなかの回遊性や魅力の向上を図り、歩いて楽しいまちづくりを進める。

[対象路線]



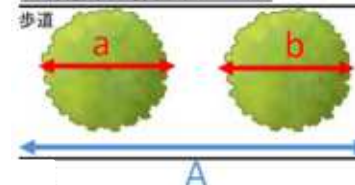
[取組目標]

| 指標名(単位) | 基準値 R6 | 目標値 R10 |
|---------------------|-----------|------------|
| 緑視率(%)※1 7路線の平均値 | 22.9 | 25.0 |
| 緑陰率(%)※2 7路線の平均値 | 23.4 | 増加を目指す |

※1 緑視率とは・・・人の視界に占める緑の割合を表し、街路樹や生け垣、壁面緑化等、人々がまちなかで目にする緑量を示す指標の一つで心理的効果を評価する際に用いられる。緑視率が25%を超えると、心理的な潤い感や安らぎ感を覚えるとされている。緑視率算出には、国土技術政策総合研究所が開発したAI緑視率調査プログラムを使用した。

※2 緑陰率とは・・・歩道の延長に対し、歩行動線の枝張長(枝や葉が茂っている部分)が占める割合を表し、街路樹等が作り出す木陰の量を示す指標として、歩行の快適性等を評価するために定義した。

＜緑陰率の算出イメージ＞



$$\text{緑陰率(\%)} = \frac{a+b \text{ (m)}}{A \text{ (m)}} \times 100$$

(a,b: 枝張長 A: 歩道延長)

桃太郎大通り

主な樹種
ユリノキ
ムクノキ

〈R6基準値〉

緑視率

19.1%

※3地点平均

緑陰率

45.6%

※北側歩道

路線の位置づけ：岡山市の玄関口である岡山駅と岡山城・後樂園を結ぶ道路であり、岡山市のイメージを印象付ける路線

方針：岡山市が緑あふれる歩いて楽しいまちであると感じられるように統一感、全体のボリューム感、美しい樹形の確保を図る。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|---|---|--|
| 樹木1本1本の大きさや形がバラバラで統一感を感じられない上、緑のボリュームも少なく歩道に木陰が少ない状況であった。 | 路線全体のボリュームアップを図るため、まずは個々の樹木のボリュームアップに取り組んできたが、元々の樹木の大きさに差があり、統一感に欠ける状況となっている。 | 第1期において課題となった、大きさ・樹形などについて統一感を持たせるため、剪定方法を工夫してボリュームアップを図り、美しい都市景観の形成を図る。 |



樹形を保ちながら路線での統一的な大きさ・ボリュームの確保を目指す。



画一的ではなく植樹間隔や樹冠にも配慮した上で、樹木の健全な成長を促しながら大きく育てていく。

県道岡山児島線
・国道250号

主な樹種
フウ

<R6基準値>

緑視率
24.8%
※3地点平均

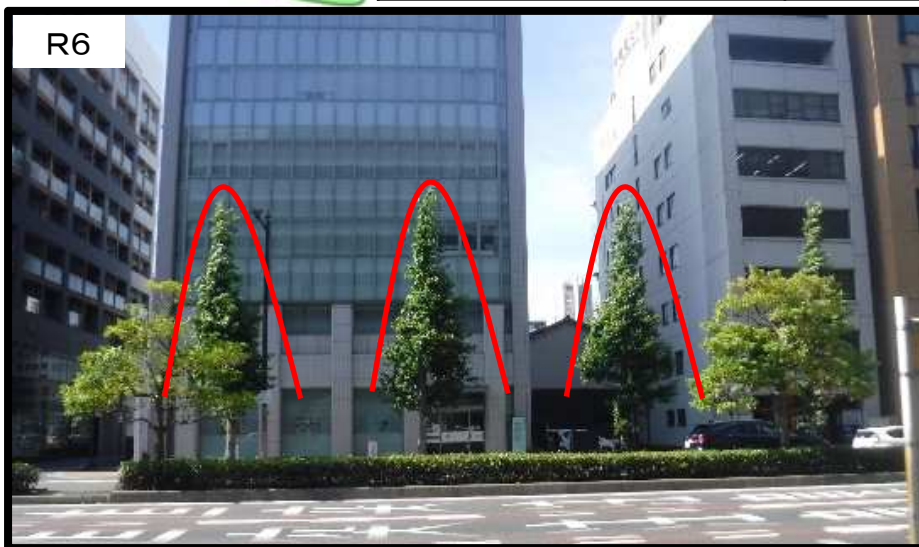
緑陰率
9.9%
※北側歩道

路線の位置づけ：岡山市の中心市街地の東西方向の外郭を構成する路線

方針：大供交差点以東 剪定方法を見直すことで街路樹を再生し、ボリュームと樹形を確保する。

大供交差点以西 既存の樹木を、成長させながら、樹形を確保する。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|--|---|--|
| 強剪定や同じ箇所での剪定の繰り返しなどでコブが形成され、緑のボリュームもなく樹形も悪化している状況であった。 | 路線全体のボリュームアップを図るため、まずは個々の樹木の樹形整形に取り組んできたが、期間内に十分なボリュームアップを図るまでには至らなかった。 | 第1期において課題となった、樹形整形後のボリュームアップを行っていくことで、美しい都市景観の形成を図る。 |



樹形整形後の路線での統一的な大きさ・ボリュームアップを行っていく。



一部の整形途中の樹木については、引き続き樹木の樹形整形を図りながら、ボリュームアップに努めていく。

城下筋

主な樹種
フウ

<R6基準値>

緑視率

27.6%

※3地点平均

緑陰率

28.2%

路線の位置づけ：文化施設ゾーンと新市民会館周辺を結ぶ、多くの利用が見込まれる路線

方針：城下交差点以南 剪定方法を見直すことでボリュームアップを図る。

城下交差点以北 いままでの剪定方法で、樹形・ボリュームを維持する。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|---|---|---|
| 城下交差点以南は路面電車の影響により歩道幅が狭く、植樹樹が小さいことから、樹木を大きく成長させることが困難な状況であった。 | 限られた道路空間の中で、道路に沿って、楕円形の樹形づくりに取り組んできたが、期間内に十分な樹形整形を図るまでには至らなかった。 | 第1期において課題となった、道路に沿って、楕円形の樹形づくりを継続していくことで緑のボリュームを維持し、美しい都市景観の形成に努める。 |

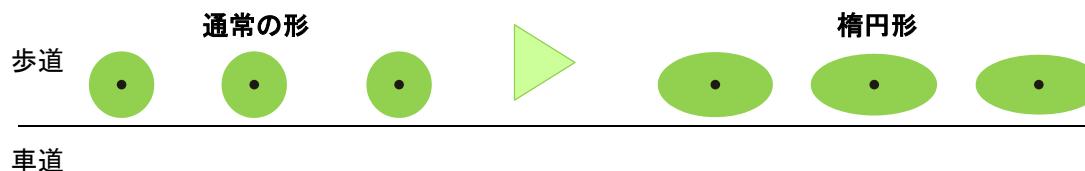
樹木間に
余裕がある



R6



樹形を道路に
平行に広げて
いく



市役所筋

主な樹種
ナンキンハゼ
クスノキ
フウ

〈R6基準値〉
緑視率
19.4%
※3地点平均
緑陰率
17.8%

路線の位置づけ：桃太郎大通りとともに岡山のシンボリックな道路であり、岡山駅から市役所本庁舎を結ぶ路線

方針：植替え更新後のボリュームアップを行っていくことで、美しい都市景観の形成を図る。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|---|--|---|
| プラタナスについて植栽後50年以上が経過し、巨木化や老木化により、樹勢が悪化していた。 | ナンキンハゼへ植え替えたため、成木に成長するまでに時間を要し、ボリューム感に欠ける状況となっている。 | 第1期において課題となった、植替え更新後の樹木をしっかりと成長させボリュームアップを行っていくことで、美しい都市景観の形成を図る。 |



植替えを行った樹木については、引き続き樹形を整形しながら、ボリュームアップを図る。

西口筋・昭和町通り

路線の位置づけ：店舗等が多く、文教・運動公園エリアへ向かう活気ある路線

主な樹種
ハナミズキ
クスノキ

方針：ハナミズキが多い区間 成長させながら、樹形を確保する。

クスノキが多い区間 剪定方法を工夫することで緑のボリュームアップを図る。

〈R6基準値〉

緑視率

16.9%

※4地点平均

緑陰率

16.3%

※北側歩道

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|--|--|---|
| ハナミズキが多い区間は樹木が小さく、クスノキが多い区間は緑のボリュームが少ない状況であった。 | ハナミズキが多い区間は、樹木の成長速度が遅いため、樹木自体がまだ小さい。クスノキが多い区間は、自転車レーンにかかるまで緑のボリュームアップを行うこととしたが、期間内に十分なボリュームアップを図るまでには至らなかった。 | 第1期において課題となった、緑のボリュームアップについて、引き続き樹形を整えながら樹木を成長させ、美しい都市景観の形成を図る。 |



植替えを行った樹木については、引き続き樹形を整形しながら、ボリュームアップを図る。

西川緑道公園筋・枝川筋

主な樹種
フウ

<R6基準値>
緑視率
30.5%
※4地点平均
緑陰率
28.1%

路線の位置づけ： イベント等に多く使われる西川緑道公園および枝川緑道公園と一体化した路線

方針： 西川・枝川緑道公園内との調和を図りながら、緑のボリュームを維持する。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|--|--|---|
| 西川緑道公園筋・枝川緑道公園筋の街路樹は、公園樹木と調和を図り、豊かな緑量を既に有している状況であった。 | 引き続き西川緑道公園筋・枝川緑道公園筋の街路樹と公園街木の調和を図りながら、緑のボリュームを維持する必要がある。 | 西川緑道公園筋・枝川緑道公園筋の街路樹の樹形の美しさを保ち、緑のボリュームを継続して維持することで、西川緑道公園・枝川緑道公園と一体となった、水と緑の憩いの空間づくりを演出していく。 |



西川緑道公園内



西川緑道公園と西川緑道公園筋

ハレまち通り・県庁通り

主な樹種
アヤケヤキ
プラタナス
ハナミズキ

〈R6基準値〉

緑視率

21.9%

※4地点平均

緑陰率

18.1%

※北側歩道

路線の位置づけ：岡山駅前、西川緑道公園そして、表町商店街のにぎわいの拠点を
結ぶ路線

方針：アヤケヤキの区間 樹木を成長させ、植替え後のボリュームアップを図る。
ハナミズキの区間 成長させながら、樹形を確保する。
プラタナスの区間 樹形を確保する。

| 現状と課題 (H30年時点) | 第1期の課題 (R元～R5) | 第2期の取組 (R6～R10) |
|--|---|--|
| ハレまち通りの区間において、一車線化工事が計画されており、魅力的な道路空間の創出と良好な都市景観の形成を図るため、適切な街路樹の選定が必要であった。 | ハレまち通りの一車線化工事に伴いアヤケヤキを植栽し、道路空間の魅力が向上したが、植替え直後のため、ボリューム感に欠ける状況となっている。 県庁通りについては引き続き、樹形を整えながらボリュームアップを図る必要がある。 | ハレまち通りは、植替え更新後の樹木をしっかりと成長させボリュームアップを図ることで、美しい都市景観を形成する。 県庁通りは引き続き樹形を整えながらボリュームアップを図る。 |



植替えを行った樹木については、引き続き樹形を整形しながら、ボリュームアップを図る。



街路樹再生プログラム(第2期)【R6年度～R10年度】 ～西大寺駅周辺地区(4路線)～



[目的]

本地区は西大寺観音院の門前町として発展してきた地域であり、地域の交通拠点であるJR西大寺駅周辺や幼稚園から高等学校に至る教育施設の集積している文教エリア、西大寺観音院を中心とした歴史文化エリア、西大寺緑花公園や東区役所等の公共施設が立地するエリア等、それぞれ特徴ある顔を持つエリアで構成されている。

これらの拠点を結ぶ路線について緑のボリュームアップを行うことで、更なる魅力や回遊性の向上を図っていく。

[対象路線]

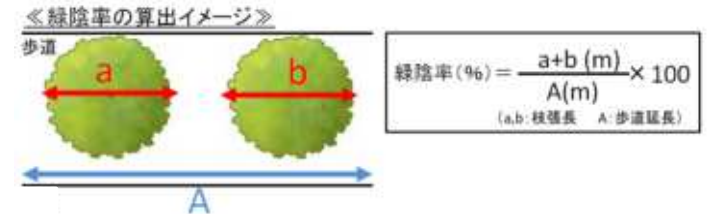


[取組目標]

| 指標名(単位) | 基準値 R6 | 目標値 R10 | 目標値 R16 |
|---------------------|-----------|------------|------------|
| 緑視率(%)※1 4路線の平均値 | 16.2 | 20.6 | 25.0 |
| 緑陰率(%)※2 4路線の平均値 | 5.2 | 増加を目指す | |

※1 緑視率とは・・・人の視界に占める緑の割合を表し、街路樹や生け垣、壁面緑化等、人々がまちなかで目にする緑量を示す指標の一つで心理的効果を評価する際に用いられる。緑視率が25%を超えると、心理的な潤い感や安らぎ感を覚えるとされている。緑視率算出には、国土技術政策総合研究所が開発したAI緑視率調査プログラムを使用した。

※2 緑陰率とは・・・歩道の延長に対し、歩行動線の枝張長(枝や葉が茂っている部分)が占める割合を表し、街路樹等が作り出す木陰の量を示す指標として、歩行の快適性等を評価するために定義した。



市道西大寺上・中川町1号線

主な樹種
クロガネモチ

〈R6基準値〉
緑視率
16.0%
※3地点平均
緑陰率
5.4%

路線の位置づけ : 街の玄関口であるJR西大寺駅と小学校・中学校・高等学校が隣接する文教エリアを結ぶ路線

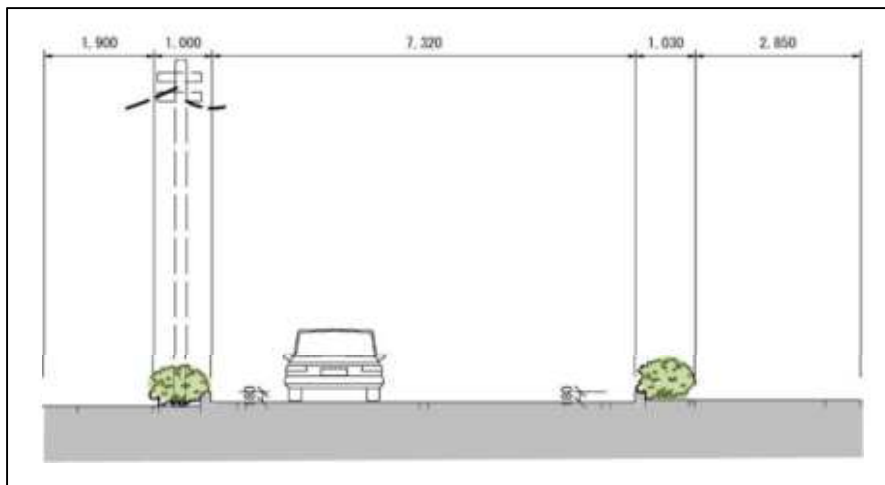
既設街路樹の特徴: 歩道の一部にはクロガネモチが植栽されており、剪定により仕立てられ健全に育っている。低木としてヒラドツツジカンツバキが植栽されているが、ところどころ 枯れなどによる欠損が見られる。

方針: クロガネモチが多い区間 既存の樹木を成長させながら、ボリュームと樹形を確保する。

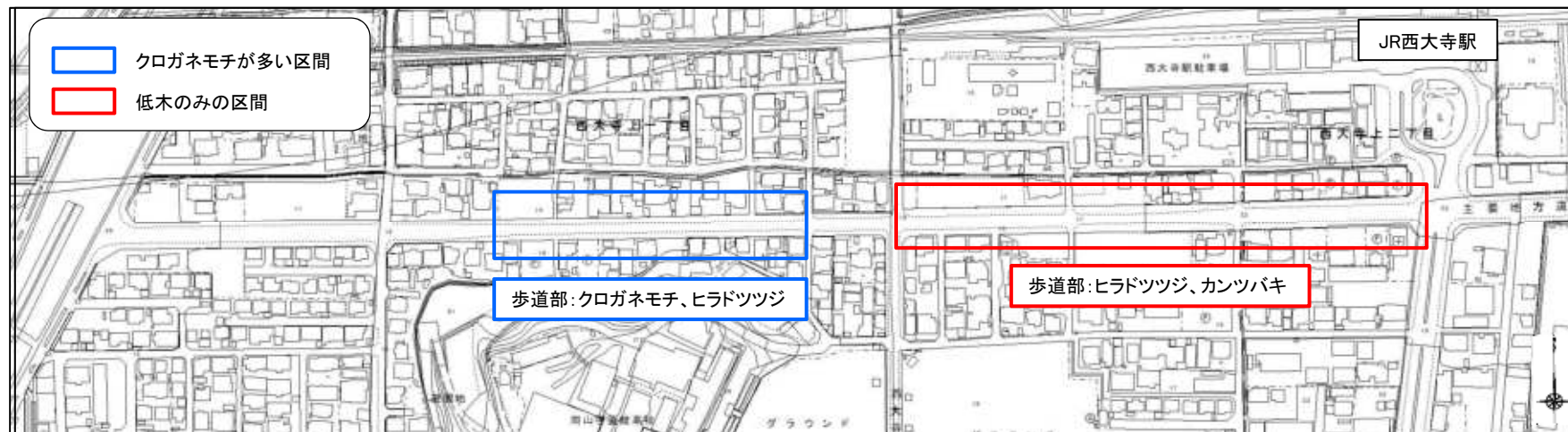
低木のみ区間 路線東側の植栽状況に合わせ高木を植栽し、路線としての統一感を図る。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|--------|-------------------|-------------------------------------|------------|-----------------|
| クロガネモチ | 樹勢は良好だが、樹高が低い | 樹形を確保しながら道路機能に支障のない範囲で緑のボリュームアップを図る | | |
| 低木のみ区間 | 樹勢は良好だが、欠損箇所が見られる | 低木の補植とともに高木の植栽について次年度以降の施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 望ましい樹形・ボリュームの維持 |

現況代表断面図
(路線東側)



市道西大寺上・中川町1号線



路線西側歩道部



【方針】

- 歩道部の高木については樹形を確保しながら緑のボリュームアップを図る。
- 低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。

低木のみの路線東側歩道部



欠損個所の見られる低木



【方針】

- 路線西側の植栽状況に合わせ高木を植栽し、路線としての統一感を図る。
- 低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。

県道西大寺山陽線

主な樹種
ヤマモモ
ケヤキ

<R6基準値>

緑視率

9.0%

※3地点平均

緑陰率

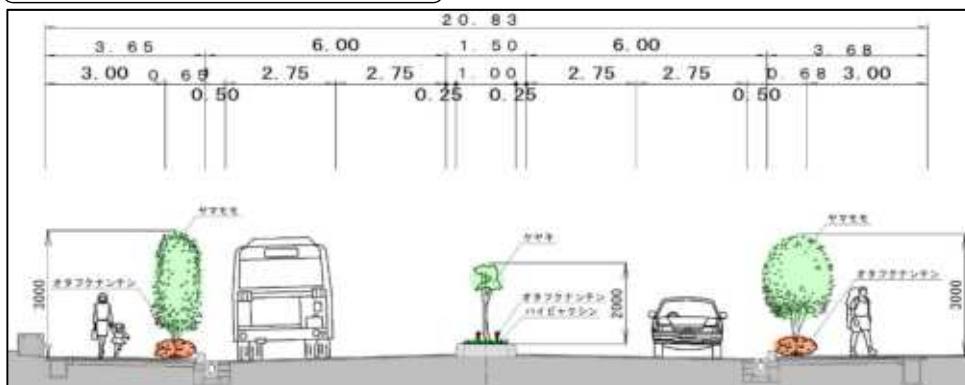
2.0%

路線の位置づけ：街の玄関口であるJR西大寺駅と歴史的な建物・風情が残るエリアを結ぶ路線
 既設街路樹の特徴：歩道には剪定により仕立てられたヤマモモが健全に育っているが、中央分離帯（路線北側）のケヤキは、分離帯自体の幅が狭い上、大型車通行量も非常に多いことから枝張りを抑制せざるを得ない状況となっており、樹木の衰弱が著しい。
 路線南側は植樹柵が設置されていない。

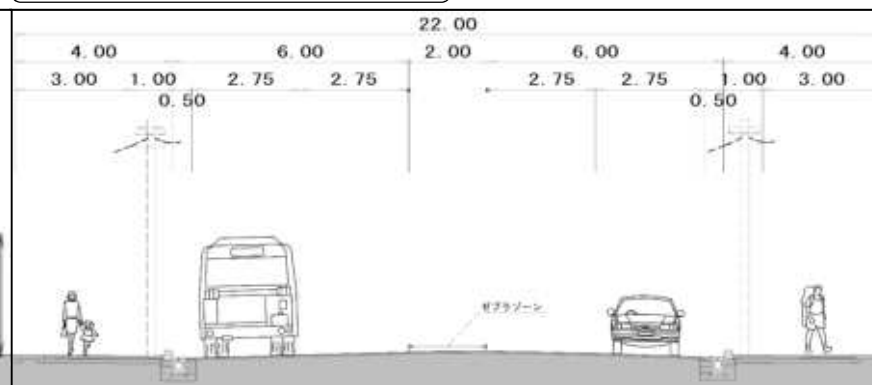
方針：ヤマモモが植栽されている歩道部 既存樹木を成長させながら、ボリュームと樹形を確保する。
 ケヤキが植栽されている中央分離帯 衰弱への対応として植樹帯の状況も考慮し、植栽の見直しも含めて検討する。
 南側植栽柵の無い区間 植栽柵の設置箇所を検討し、路線として統一感のあるボリュームアップを図る。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|------|---------------------|-------------------------------------|------------|----------------|
| ヤマモモ | 樹勢は良好だが、一部樹形の統一感がない | 樹形を確保しながら道路機能に支障のない範囲で緑のボリュームアップを図る | | |
| ケヤキ | 衰弱による樹勢の悪化が顕著 | 樹木の生育環境を鑑み、植栽を見直し、施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 美しい樹形・ボリュームの維持 |

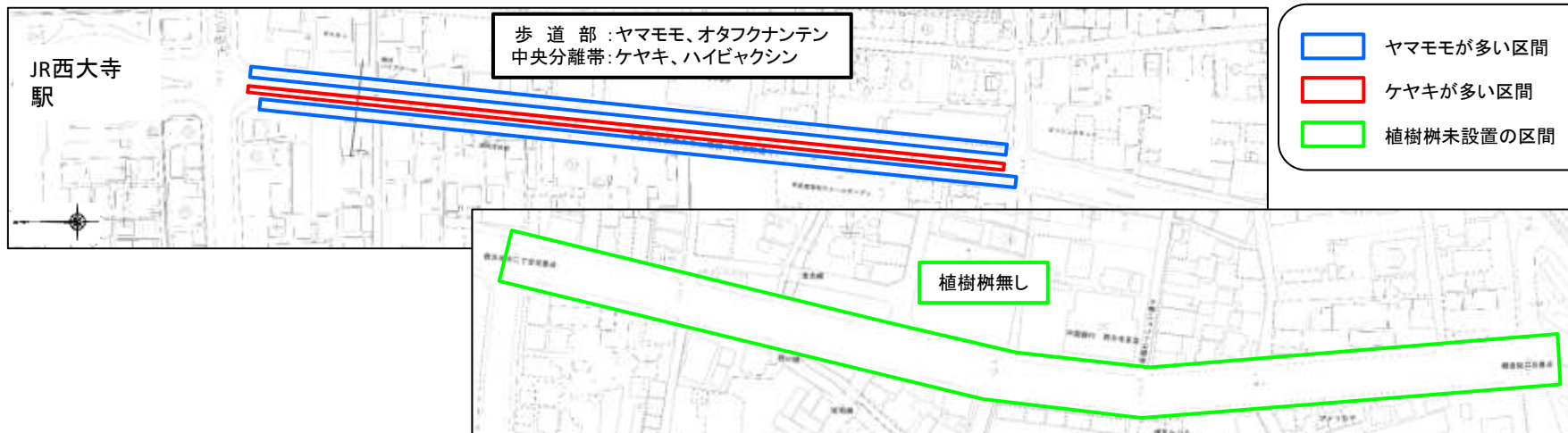
現況代表断面図(路線北側)



現況代表断面図(路線南側)



県道西大寺山陽線



【方針】

- 歩道部の中高木については樹形を確保しながら緑のボリュームアップを図る。
- 中央分離帯の中高木については樹勢の悪化が見られることから、樹木の生育環境を鑑み、道路機能の確保も考慮した上で、植栽基盤の見直しや樹木の植替えについて検討する。
- 低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。

【方針】

- 電線共同溝などの地下埋設物の状況を考慮の上、植栽樹の設置可否について検討し、歩道的美装化工事に合わせて実施する。
- 路線北側の植栽状況に合わせ、路線としての統一感を図る。

県道岡山牛窓線

主な樹種
ヤマモモ
ケヤキ

<R6基準値>

緑視率

15.6%

※3地点平均

緑陰率

8.0%

路線の位置づけ：現在の街の活性化エリアと歴史的なエリアを結ぶ路線

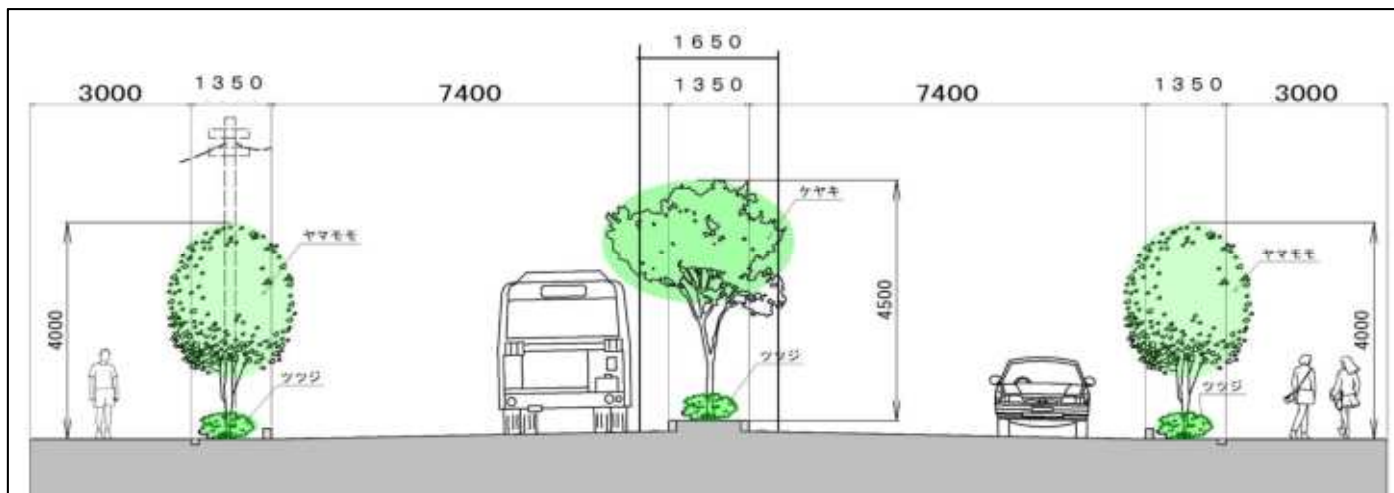
※将来的に電線共同溝、自転車通行帯の設置が予定されている。

既設街路樹の特徴：歩道には剪定により仕立てられたヤマモモが健全に育っているが、中央分離帯のケヤキはあまり大きく育っていない。どちらも低木としてツジが植栽されているが枯れなどによる欠損が多くみられる。

方針： ヤマモモ植栽されている歩道部 既存の樹木を成長させながら、ボリュームと樹形を確保する。
ケヤキが植栽されている中央分離帯 道路空間に合わせたボリュームアップの方法などについて検討を行う。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|------|---------------------|-------------------------------------|------------|-----------------|
| ヤマモモ | 樹勢は良好だが、一部樹形の統一感がない | 樹形を確保しながら道路機能に支障のない範囲で緑のボリュームアップを図る | | |
| ケヤキ | 強剪定による樹形の悪化が見られる | 剪定方法の見直し等について施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 望ましい樹形・ボリュームの維持 |

現況代表断面図



県道岡山牛窓線



| 歩道部 | | 中央分離帯 |
|--------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| <p>低木(ツツジ)の欠損が多くみられる</p> | <p>樹形の統一感がなく、枝下高さが十分でない一部のヤマモモ</p> | <p>大型車通行を考慮した剪定により、ボリュームが足りないケヤキ</p> |

【方針】

- 歩道部の中高木については、樹形を確保しながら統一感のあるボリュームアップを図るとともに、低木の欠損箇所への補植を行う。
- 中央分離帯の中高木については、樹木を撤去する必要があるほどの衰えが見られないことから、車両の通行に影響しないよう、限られた道路空間の中でどのようなボリュームアップができるか等について検討する。
- 現在、電線共同溝整備事業が予定されており、その計画に応じた対応を行っていく。

市道西大寺松崎 ・西大寺中1号線

主な樹種
ハナミズキ

<R6基準値>

緑視率

24.3%

※3地点平均

緑陰率

5.5%

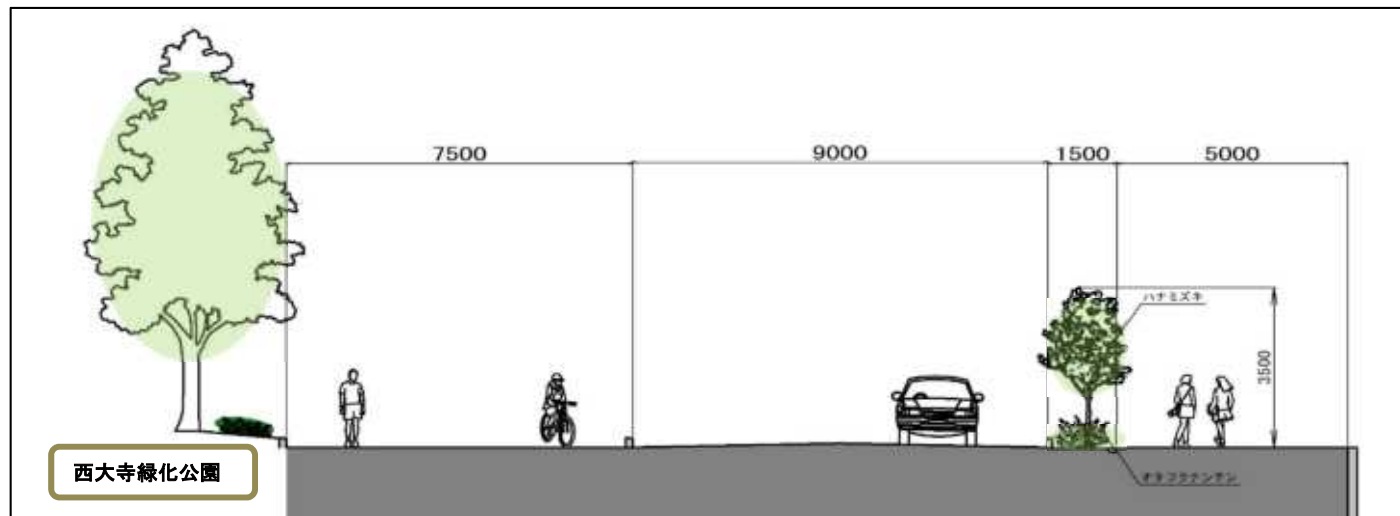
路線の位置づけ：西大寺緑花公園と一体となった緑豊かな都市景観を生み出している路線

既設街路樹の特徴：路線北側は、西大寺緑花公園外周の植栽によって豊かな緑の空間が演出されている。一方南側の歩道には中木のハナミズキが植栽されているが、樹勢の悪化が顕著なものや枯死したものが見られる。また、低木のオタフクナンテンにも枯れなどによる欠損が見られる。

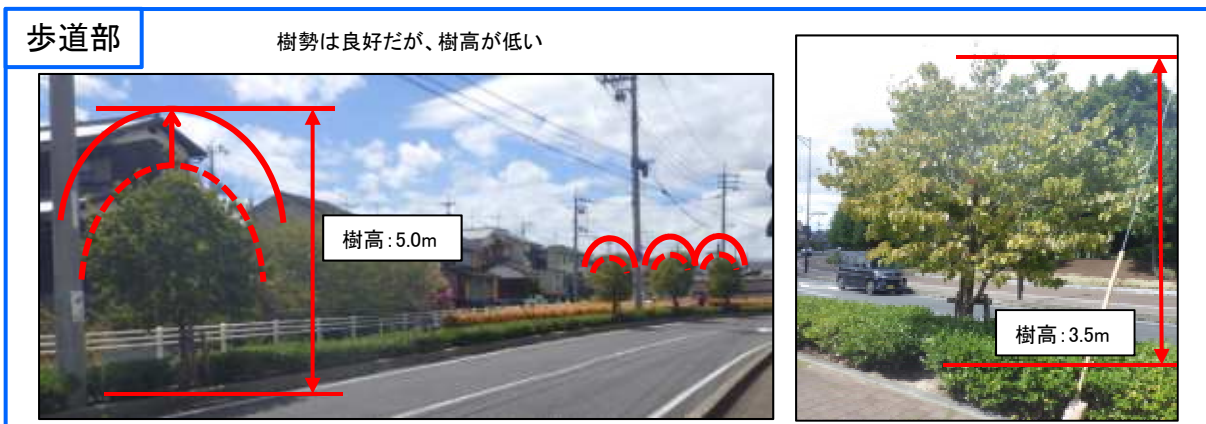
方針：既存のハナミズキを成長させながら、ボリュームアップと樹形維持を実施する。樹勢の回復が見込めない樹木や枯死した樹木については植替えを実施する。低木の欠損箇所には、既存と同じ樹種で補植を行う。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|-------|---------------|---------------------------|------------|----------------|
| ハナミズキ | 樹勢は良好だが、樹高が低い | 既存樹木を成長させながら緑のボリュームアップを図る | | |
| | 衰弱による樹勢の悪化が顕著 | 植替えについて次年度以降の施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 美しい樹形・ボリュームの維持 |

現況代表断面図



市道西大寺松崎・西大寺中1号線



- 【方針】**
- ・ 中高木のうち樹勢が良好な樹木については樹形を確保しながら、緑のボリュームアップを図る。
 - ・ 中高木のうち状態が悪く、成長が見込めない樹木は植替えを検討する。
 - ・ 低木については欠損箇所等、必要となる部分に補植を行う。



街路樹再生プログラム(第2期)【R6年度～R10年度】 ～北長瀬駅周辺地区(4路線)～



[目的]

本地区はJR北長瀬駅を中心とした約370haの地区であり、医療、交流、生活といった機能が集積し、人々の安全・安心な暮らしを支え、多くの人々が交流できる賑わい空間づくりが進められている。

また近年、南に隣接する問屋町エリアにおいて問屋町テラスをはじめとした商業エリアが構築され、新たな賑わい空間として多くの人々が訪れている。さらには地区の東側には、新アリーナの建設も予定されており、これらの拠点を結ぶ路線について緑のボリュームアップを行うことで、更なる魅力や回遊性の向上を図っていく。

[対象路線]

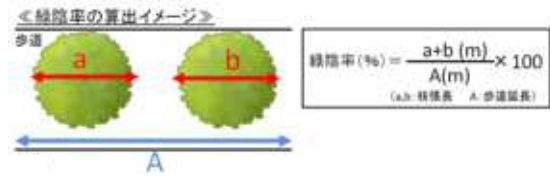


[取組目標]

| 指標名(単位) | 基準値 R6 | 目標値 R10 | 目標値 R16 |
|---------------------|-----------|------------|------------|
| 緑視率(%)※1 4路線の平均値 | 15.0 | 20.0 | 25.0 |
| 緑陰率(%)※2 4路線の平均値 | 13.9 | 増加を目指す | |

※1 緑視率とは・・・人の視界に占める緑の割合を表し、街路樹や生け垣、壁面緑化等、人々がまちなかで目にする緑量を示す指標の一つで心理的効果を評価する際に用いられる。緑視率が25%を超えると、心理的な潤い感や安らぎ感を覚えるとされている。緑視率算出には、国土技術政策総合研究所が開発したAI緑視率調査プログラムを使用した。

※2 緑陰率とは・・・歩道の延長に対し、歩行動線の枝張長(枝や葉が茂っている部分)が占める割合を表し、街路樹等が作りだす木陰の量を示す指標として、歩行の快適性等を評価するために定義した。



市道北長瀬表町 ・野田線

主な樹種
ケヤキ
ハナミズキ

〈R6基準値〉

緑視率

16.4%

※3地点平均

緑陰率

18.2%

路線の位置づけ：人の往来の増加に期待が持てる

JR北長瀬駅・北長瀬未来ふれあい総合公園の外周道路

既設街路樹の特徴：路線西側は、歩道・中央分離帯ともにケヤキが植栽されているが、樹勢の悪化が顕著である。

路線東側は、ハナミズキが植栽されており、樹勢は良好だが樹高が低い。

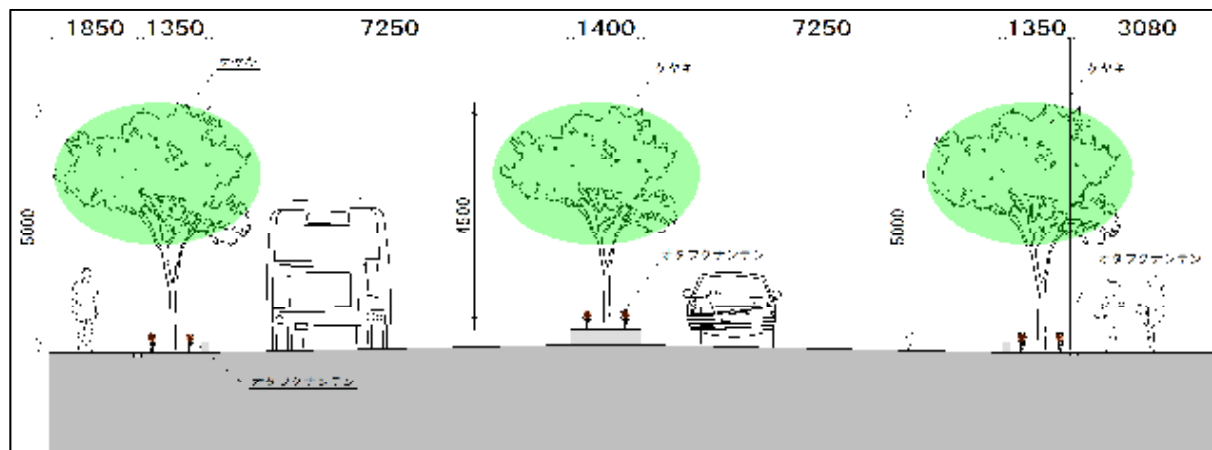
また、路線の大部分で欠損が見られる。

方針：ケヤキが多い区間 衰弱への対応については植樹帯の状況も考慮し、植栽の見直しも含めて検討する。

ハナミズキが多い区間 既存の樹木を成長させるとともに、欠損箇所について補植を行うとで、ボリュームと樹形を確保する。

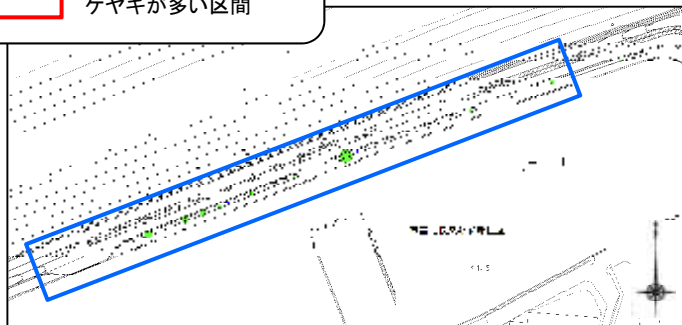
| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|-------|-------------------|---|------------|----------------|
| ケヤキ | 衰弱による樹勢の悪化が顕著 | 樹木診断の上、植栽を見直し、施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 美しい樹形・ボリュームの維持 |
| ハナミズキ | 設置年数が浅く、成木になっていない | 既存樹木を成長させさせるとともに、欠損箇所について補植を行うことで、緑のボリュームアップを図る | | |

現況代表断面図



市道北長瀬表町・野田線

- ハナミズキが多い区間
- ケヤキが多い区間



路線東側歩道部

成木となっていない
ハナミズキ

望ましい大きさ・樹形の
ハナミズキ(R5時点)



【方針】

- 中高木のうち樹勢が良好な樹木については樹形を確保しながら、緑のボリュームアップを図る。
- 中高木のうち状態が悪く、成長が見込めない樹木は植替えを検討する。
- 中低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。

路線西側歩道部・中央分離帯



ほぼすべてのケヤキが衰弱した状況であるため、樹木診断を行うとともに樹木の更新についても検討する。(樹皮割れ、葉量の減少、幹の下部が細い等)

【方針】

- 高木については樹勢の悪化が見られることから、樹木診断結果や生育環境を鑑み、樹木更新も含め検討する。
- 低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。
- 新アリーナ建設計画もあることから周辺整備の状況を見ながら、緑のボリュームアップの方法を検討する。

**市道北長瀬表町2号線
市道西長瀬・北長瀬線**

市道北長瀬表町2号線

〈R6基準値〉

緑視率

11.8%

※3地点平均

緑陰率

14.2%

主な樹種
サクラ

路線の位置づけ：人の往来の増加に期待が持てる

JR北長瀬駅・北長瀬未来ふれあい総合公園の外周道路

既設街路樹の特徴：路線を通してサクラが植栽されており、衰弱しているものが見られる上、樹勢が良好でも根元で枝分かれし歩道へ枝葉が広がっているものが多く、通行の支障となることから強剪定されている。

方針：高木について、歩道空間の状況を考慮し、植栽の見直しも含めて検討する。

低木の欠損箇所には、既存と同じ樹種で補植を行う。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|------|---------------|-----------------------|------------|----------------|
| サクラ | 樹勢は良好だが、樹高が低い | 樹形を確保し緑のボリュームアップを図る | | |
| | 衰弱による樹勢の悪化が顕著 | 樹木診断の上、植栽を見直し、施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 美しい樹形・ボリュームの維持 |

現況代表断面図

〈R6基準値〉

緑視率

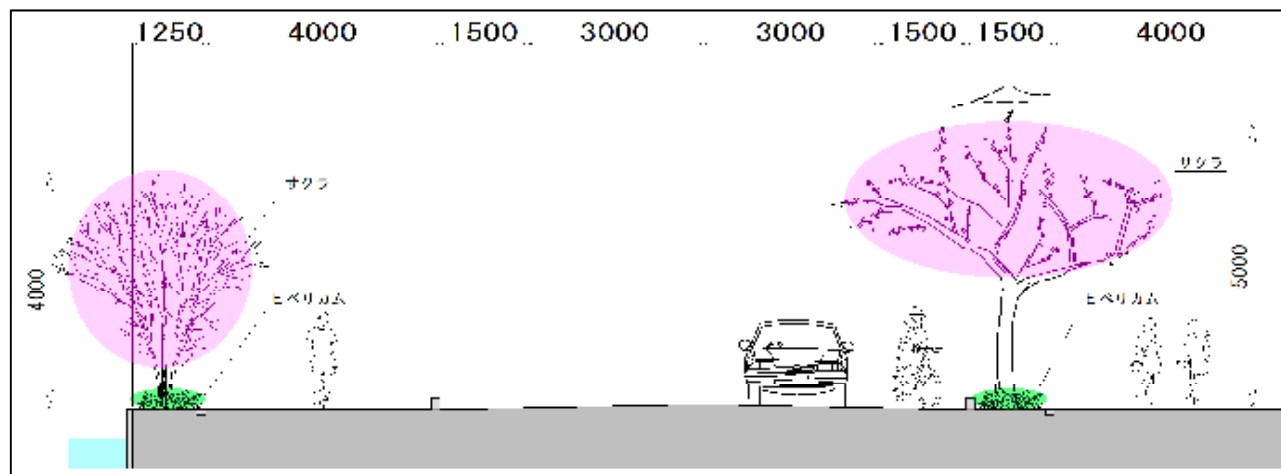
13.6%

※3地点平均

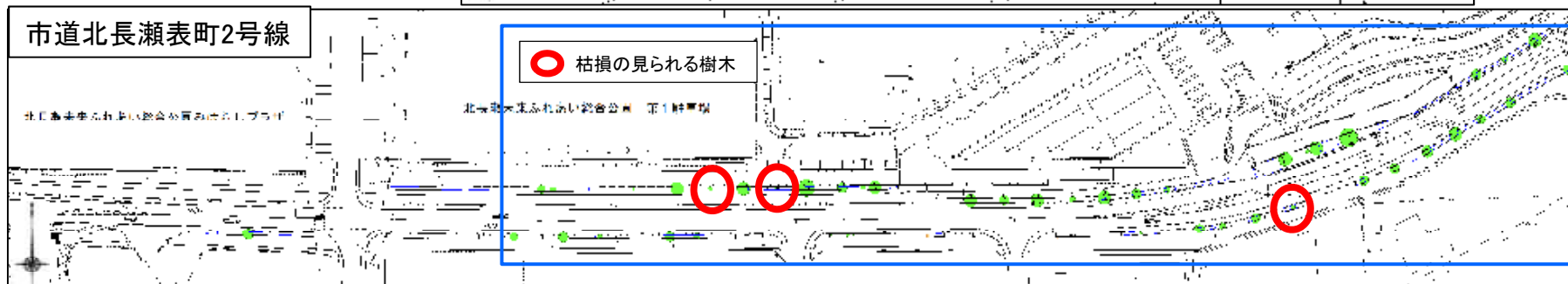
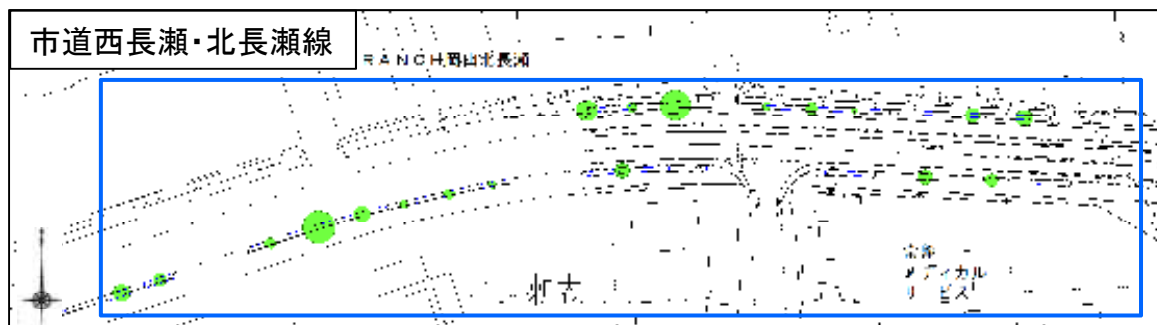
緑陰率

9.1%

市道西長瀬
・北長瀬線



市道北長瀬表町2号線 市道西長瀬・北長瀬線



歩道部



ほぼすべてのサクラが根元から水平方向に枝が広がり歩道の通行に支障が出ている
雑草が植栽を覆うように成長している

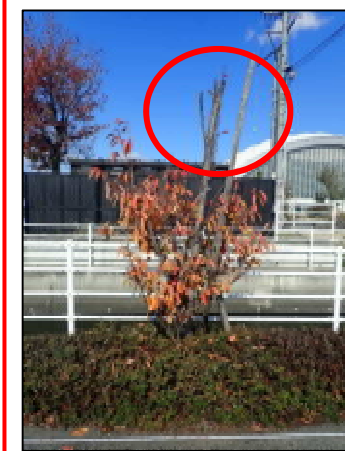


根元で枝分かれし低い位置で枝葉が広がるサクラ



歩道への影響を考慮して強剪定されたサクラ

枯損



【方針】

- 高木については樹勢の悪化などが見られることから、樹木診断結果や樹木の生育環境を鑑み、道路機能の確保も考慮した上で、植栽基盤の見直しや樹木の植替えについて検討する。
- 低木については欠損箇所など必要となる部分に補植を行う。

市道今・西市線

主な樹種
タブノキ
ケヤキ
クスノキ

〈R6基準値〉

緑視率

18.2%

※3地点平均

緑陰率

14.0%

路線の位置づけ : にぎわいのあるJR北長瀬駅周辺と問屋町の2つのエリアを結ぶ路線

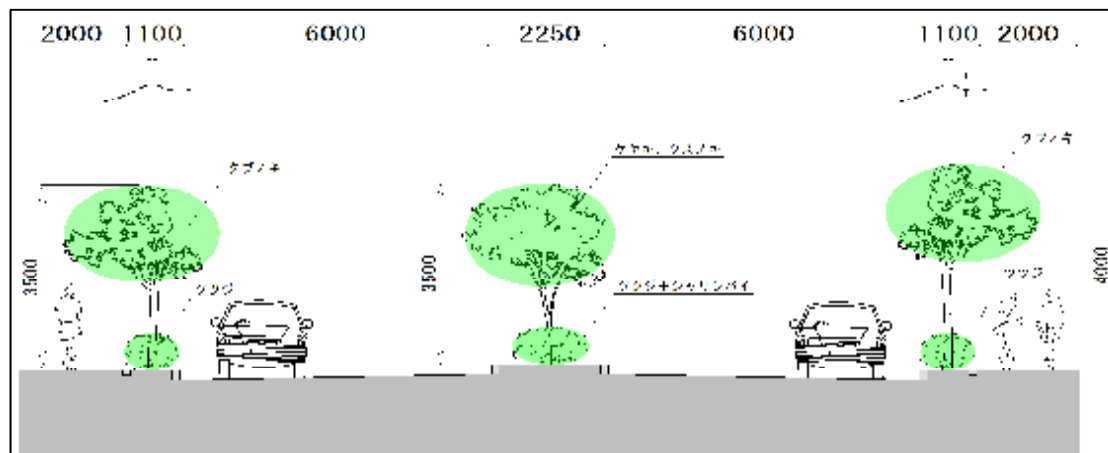
既設街路樹の特徴: 歩道部はタブノキ、中央分離帯はケヤキとクスノキが交互に植栽されており、健全に育っている。

方針: タブノキが多い区間 剪定方法の見直しにより望ましい樹形・ボリュームアップを図る。

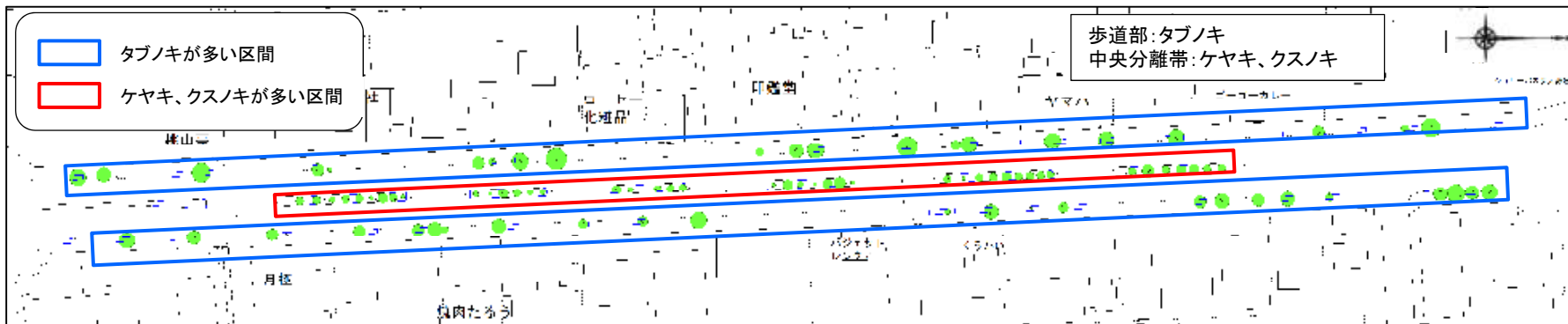
ケヤキ、クスノキが多い区間 いままでの剪定方法で樹形・緑のボリュームを維持する。

| 主な樹種 | 現況 | 1年目 | 2年目～5年目 | 6年目～ |
|----------|---------------------|---------------------------|------------|----------------|
| タブノキ | 電線への干渉の危険や、樹形の悪化がある | 剪定方法の見直しについて次年度以降の施工計画を作成 | 施工計画に沿って実施 | 美しい樹形・ボリュームの維持 |
| ケヤキ・クスノキ | 樹勢は良好だが、樹高が低い | 樹形を確保し緑のボリュームアップを図る | | |

現況代表断面図



市道今・西市線



歩道部

電線への干渉を防ぐため、剪定によって樹高を調整しているタブノキ

枝の切除位置が悪いので、樹形が乱れている

中央分離帯

樹高: 5.0m

樹高: 3.5m

小さいが、樹形・ボリュームがそろっていないケヤキ、クスノキ(中央分離帯)

- 【方針】**
- 歩道部の中高木については、剪定方法を見直し、樹形を確保しながら統一感のあるボリュームアップを図る。
 - 中央分離帯の中高木については、樹形を確保しながら統一感のあるボリュームアップを図る。
 - 今後、道路改良が予定されており、新たな幅員構成の状況に応じたボリュームアップを図る。

市域全体の街路樹の再生について

【目的】

岡山市の街路樹は、現在「岡山市 街路樹・公園樹木管理指針」に基づき、管理を行うこととしているが、路線ごとの状況に応じた管理手法とはなっておらず、緑化推進重点地区の取組成果を市域全体に広げる必要がある。

市域の街路樹全路線を対象に、現況把握を行い、路線ごとの「街路樹剪定マニュアル」を作成し、効率的・効果的な街路樹の管理に取り組み、地域の街並みにふさわしい街路樹へと再生を図る。

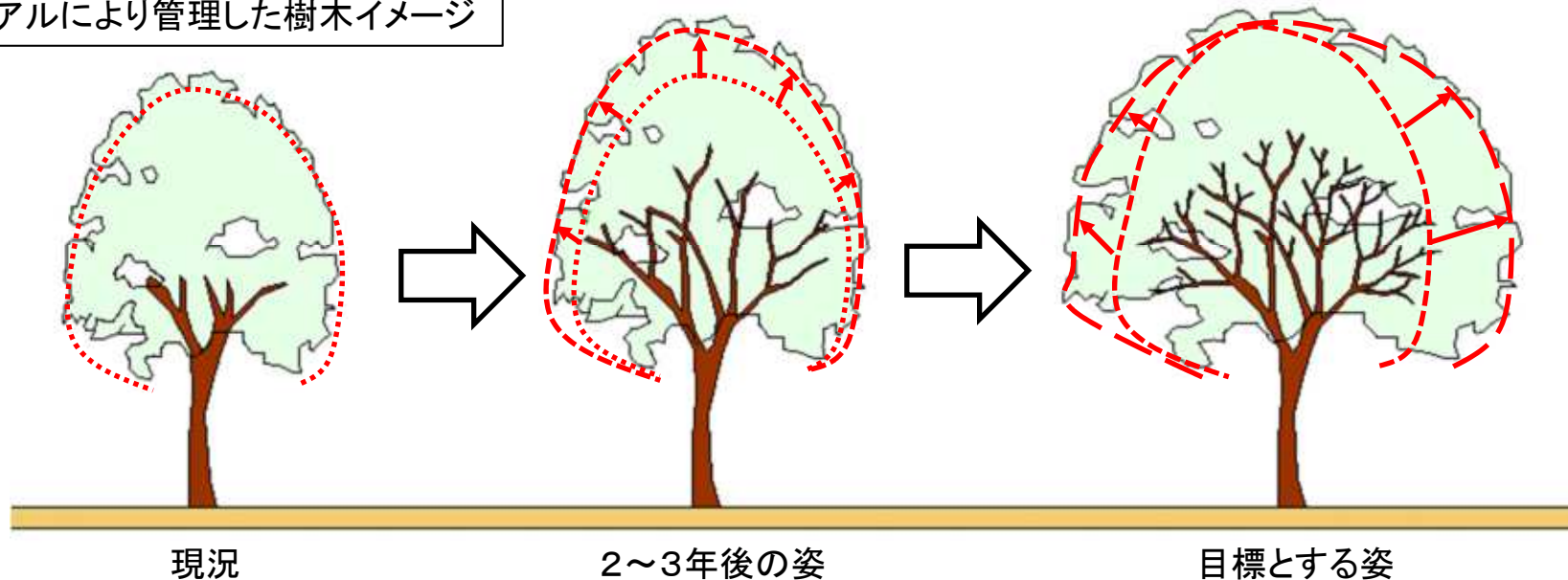
現況把握

- 生育環境: 歩道や路肩の幅員・交通状況
- 管理状況: 樹種・樹高・剪定状況
- データ整理: 紙資料の電子化(デジタル台帳)

マニュアル作成

- 剪定方法や時期
- 目標とする樹形や大きさ

マニュアルにより管理した樹木イメージ



[改訂履歴]

| Ver. | 発行日 | 改訂内容 |
|---------|------------|------------------|
| Ver.1.0 | 令和6年12月20日 | 初版 |
| Ver.2.0 | 令和7年 4月23日 | 取組目標の指標に「緑陰率」を追加 |



街路樹再生プログラム(第2期)

発行 : 岡山市

編集 : 都市整備局 都市・交通部 庭園都市推進課

郵便番号 : 〒700-8544

住所 : 岡山市北区大供一丁目1番1号

電話 : 086-803-1000(代表)

086-803-1392(直通)

URL : <https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000066489.html>